

心の仕組みを知って  
鍛えれば、ささいなことで  
悩まずにすむ。



コミュニケーション学部  
コミュニケーション心理学科教授  
**齋藤和志**

【学歴】  
1982年 名古屋大学教育学部教育心理学科卒業  
1988年 名古屋大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程修了

【職歴】  
1989年5月 名古屋大学教育学部教育心理学科助手  
1991年4月 愛知淑徳短期大学コミュニケーション学科講師  
1992年10月 同助教授  
1995年4月 愛知淑徳大学文学部コミュニケーション学科助教授  
2000年4月 愛知淑徳大学コミュニケーション学部  
コミュニケーション心理学科助教授  
2001年4月 同教授

齋藤先生の研究のキーワードは「関心を持つこと」「人」「会話」「迷惑」などに対して関心が高い人と低い人があるが、その違いは何なのかという研究に取り組んでいます。出身大学の名古屋大学では精力的に社会心理学の研究が行われており、齋藤先生は今も共同研究に参加。その共同研究を通して、「健康な身体を維持するのと同じように、心の基礎トレーニングをする。そのためには心の仕組みを知ることが重要」として、中高生向けの教材作りを進めています。「社会心理学を日常の生活のなかで活かすことはできないか」と、若者向けの雑誌に分かりやすく心理学を紹介するなど、幅広い活動を行っています。

**特**

に興味を持って研究してきたのは、私たち人間は人と人と

象まで、幅広いものを含んでいます。側面から、「流行」などの社会的な現象まで、幅広いものを含んでいます。

**研**

究とは少し異なる観点で、最近関心を持っていることがあり、それは、「生活に（社会心理学を活かそう）」ということです。心

**私**

の専門である社会心理学は、ある意味ちょっとやっかいな学問です。研究の対象が私たちの普段の行動や感情、思考であるため、自然科学における「新しい発見」のようなことは少ないかもしれませんが、私たちの日常的な行動と思考の関連性やその仕組みなどについて理解するための枠組みを提案していると言ったらよいでしょうか。「社会」という言葉も、「人と人とのつながり」などの人間関係の側面から、「流行」などの社会的な現象まで、幅広いものを含んでいます。

【齋藤先生の主要著作・論文リスト】

- 分担任筆
- ◇共編著
- 愛知淑徳大学論集（コミュニケーション学部篇）掲載論文
- 「対人相互作用」（「社会心理学—個人と集団の理解—」）ナカニシヤ出版 1999
- 「会話意識尺度作成の試み」2002
- 「対人環境の理解とコミュニケーション」（「子どもの対人関係能力を育てる」）教育開発研究所 2002
- ◇「教室で学ぶ『社会の中の人間行動』」明治図書 2005
- 「中学生の考える『社会』への探索的アプローチ」（共著）2005
- ◇「学校教育で育む『豊かな人間関係と社会性』」明治図書 2005
- 「テキストマイニングによる中学生の自由記述データの探索的分析—個人特性および人口学的変数との関連から—」（共著）2006

